

平成17年度市町村振興総合補助金 市町村提案事業採択状況

NO.1

市町村名	事業名	補助金額 (千円)	対象事業費 (千円)	事業の概要		採択理由
仙台市 (第1次)	災害情報提供システム整備事業	15,000	36,750	(目的)	100万市民に対し、火災や救助活動等の災害情報を円滑かつ効果的に伝達させるための手法を整備する。	大都市住民に対し、災害情報をいち早く、正確に伝達するシステム構築として、必要性・緊急性は評価するものであり、119番通報とオンタイムの情報伝達、聴覚障害者に対する配慮等、独自の創意工夫も見られる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する情報をリアルタイム（自動的）にホームページに掲載するとともに、携帯端末等へメール配信する。 ・消防車両の出場情報も災害情報にあわせて提供する。 ・聴覚障害者に対する円滑な情報提供が可能となる。 	
古川市 (第1次)	「フードビジネスランド構想」事業	2,318	4,636	(目的)	市町村合併を見据え、市民が地域に暮らすことの豊かさを見つめ、誇りをもって住める地域を創出するために、地域固有の資源である「食」に関する「地域ブランド」を創り、地元の食材を活用したニュービジネスの創出を目指す。	地域ブランドの確立を主眼とした、合併後の新市における産業振興施策として、地域の独自性、必要性・緊急性について評価しうる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元食産業、観光業関係者に専門アドバイザーを交えてのフードビジネスランド構想策定。 ・ブランドコンセプトに基づいた新商品開発、ブランド化モデル商品のテストマーケットの開催。 	
田尻町 (第1次)	マガンの里づくり事業	1,000	2,000	(目的)	世界有数のマガン越冬地である蕪栗沼を中心とした、地域の貴重な自然環境の保全と経済活動の共生を推進するため、「ふゆみずたんぼ」や「エコツーリズム推進モデル事業」などの担い手なる人材を育成し、持続可能な開発のための教育、文化、経済のあり方を確立する。	貴重な地域資源を活用した取組として、地域の独自性について評価しうるものであり、NPOや教育研究機関との連携・協働等、独自の創意・工夫も認められる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・マガンの里づくり委員会（仮称）設置 ・大学、大学院生の当該地域での研究に関する活動支援 ・小中高大連携の環境教育の研究プロジェクト ・国際シンポジウムの開催 ・「マガンの里物語（仮称）」作成基礎調査 	

平成17年度市町村振興総合補助金 市町村提案事業採択状況

市町村名	事業名	補助金額 (千円)	対象事業費 (千円)	事業の概要		採択理由
女川町 (第1次)	多目的交通システム導入 に向けての検証事業	2,534	5,068	(目的)	高齢者の生活自立度向上のための交通手段の確保と地元経済への波及効果をねらいに、利用者の要望に応じた配車・運行を内容とした「デマンドシステム」による町内ローカル交通の改善を目指す。	個々の利用者の要望に応じたドア・トゥ・ドアのサービス提供等、デマンド方式の採用について、先進性・モデル性、独自の創意工夫の観点から評価しうる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・新多目的交通システム導入の検討（住民参加方式による交通まちづくりの推進、地域社会とタイアップ可能な仕組みの構築）。 ・商工会を事業主体とし、商工会内に住民代表のワークショップを設置。 ・基礎調査を実施し導入実施計画を策定（既存路線バスの調整・学校統合に向けたスクールバスの併用、商店会の活性化等の波及効果等も併せて検証）。 	
登米市 (第1次・追加)	生活交通システム調査研究事業	6,250	23,000	(目的)	新市における新たな地域内交通体系の在り方について、住民ニーズを把握するための社会実験として循環バス及びオン・デマンド交通実験を行い、事業評価委員会を設置、検証し、結果を新市交通計画に反映させる。	循環バスの運行のみでは、新規性等の観点から積極的に評価しうるものではないが、オン・デマンド実験との組み合わせにより実施する取組については、新規性、独自性という観点から評価しうる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・旧町域間を循環する広域循環ルート及び登米市佐沼地区と旧町域間の中心部接続ルートを設定し、バス事業者への委託により試験運行を行う。 ・旧東和町地区において、予め登録した利用者を対象に、自宅から循環バス停留所までの区間について、タクシー事業者への委託によりオン・デマンド交通実験を行う。 ・事業評価委員会を設置し、事業の検証を行う。 ・モニターを委嘱し、モニタリングを行う。 	
七ヶ宿町 (第2次)	癒しと学習の森づくり推進事業	1,559	3,119	(目的)	町土面積の92%を占める森林、かつ県内最大の七ヶ宿ダムを擁する七ヶ宿町の特色を活かして、森林散策による癒しの場や、動植物の観察及び炭焼き体験などによる学習の場などとしての森林の新たな利活用方策を検討する。	地域の特性・独自性を活かした企画内容であり、町民ガイドの育成やNPOとの連携等、独自の創意・工夫についても評価できる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・町民及び町内で環境活動に携わるNPOなどと連携して森林浴や森林学習の適地となる美林7箇所を選定し、かつ選定箇所を「癒しと学習の森」として、整備・利活用の計画を定める。 ・次年度以降、森林セラピー基地・森林セラピーロードとしての認定を視野に入れた整備を進める。また、町民ガイドの育成や町内の森林保全団体と協働で、炭焼き体験など既存の地域資源を活用した体験プログラムを創出し、「癒しと学習の森」を拠点としたグリーンツーリズムの推進を図る。 	

平成17年度市町村振興総合補助金 市町村提案事業採択状況

市町村名	事業名	補助金額 (千円)	対象事業費 (千円)	事業の概要		採択理由
柴田町 (第2次)	協働による「まちづくり」推進事業	2,279	4,559	(目的)	住民自らが実践するまちづくり，地域づくりを推進していくため，身近で取り組みやすい分野である文化・スポーツ活動において自治の取り組みをモデル的に実践することで，地域コミュニケーションの育成，住民主導のまちづくりを具体的に推進する。	行政サイドの支援体制の整備，地元大学との連携等，独自の創意・工夫について評価しうる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> 各行政区に推進員を設置し，地域の人材育成を図る。各行政区の個性を重視した講座等（仙台大学との協働の介護予防講習会等）を住民主体で企画・立案，実施する。 各推進員は，各行政区の特徴を生かした活動を実践するとともに，地域と行政との調整を図る。 行政側はこの活動に対し時限的な活動奨励補助金を交付し，活動に対する助言・指導を行うことにより，地域主導の活動を育成・促進する。 	
東松島市 (第2次)	手づくりの新市民一体化推進事業	1,500	3,200	(目的)	合併新市において，できるだけ早期に住民相互の信頼関係を築きながら新しい自治体としての一体感を築き，多彩な地域のポテンシャルを最大限に発揮する環境を整える。	合併市における一体感，新市民意識の醸成に向け，地域の特性・独自性を活かした取組として評価しうる。
				(内容)	<ul style="list-style-type: none"> 新市全域から公募した市民によるワークショップ（東松島市まちづくり市民会議）を開催し，検討会，懇談，タウンウォッチング，まちづくりに関する作文公募等を実施し，ここから得られた市民からの提案の一部を，新市総合計画策定の資料として活用する。 また，航空自衛隊松島基地に関し，市域に基地の利活用を考える市民団体を組織化し，将来のまちづくりに欠かせない基地の問題に対する市民の意見の集約を図る。 	
合計		32,440	82,332			